

本日は、多くの皆様方に、「古代歴史文化賞」記念行事にお出でいただき、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

さて、昨年は古事記が編纂されてから1300年の年でありました。今年はお出雲大社と伊勢神宮の遷宮の年であります。3年前の2010年には、奈良県で平城遷都1300年の式典が行われました。

こうした中、国民の多くの方々の中で日本の古代世界についての関心が高まってきております。

そして、日本の古代の歴史や神話関係の本も数多く出版されてきております。

しかし、これらの本の中には、一般の読者には難しいものであったり、フィクションとして書かれたものも多くあります。

「歴史的な研究を踏まえながらも、わかりやすい本が出版されますと、もっと多くの方々が、日本の歴史に興味と関心をお持ちになるのではないか」と思われます。

そこで、古代の歴史・文化にゆかりの深い三重県、奈良県、宮崎県の知事さんなどと相談いたしまして、今回、「古代歴史文化賞」を共同で創設することになったのであります。

賞の選定方法につきましては、芥川賞や直木賞の選考方法を参考にしまして、次のようにしております。

まず、選考の対象となる書籍は、国内の学識経験者の方々や出版社などから推薦をしていただきました。今回は49点ありました。

そして、元京都大学副学長で、現在は国の人間文化研究機構の機構長をお務めであります金田章裕先生をはじめ、この分野で経験豊かな先生方、6名の方々に選定委員になっていただきました。

この選定委員会のご指導を得ながら、推薦された書籍の読み込み作業を行い、大賞候補作を5冊に絞り込みました。

そして、9月9日に最終的に選定委員会で古代歴史文化賞の大賞と4点の地域賞が決定され、今日の授賞式となったのであります。

受賞作の決定後、東京・大阪などの大きな書店では「古代歴史文化賞フェア」と銘打ったコーナーがおかれ、また、それぞれの書籍の出版社には全国から多くの反響が寄せられ、版を重ねられているものもあるとお聞きしております。

今般の古代歴史文化賞創設をひとつの契機としまして、より多くの方々の中で、「日本の国家がどのようにしてできてきたのか」など、「古代世界」についての様々な関心が高まることをご期待申し上げまして、開会に当たりましてのご挨拶にかえさせていただきます。